

＜農業生産法人、集落営農組織の育成に取り組む事例＞

○地域の活性化と担い手育成を目指した集落営農

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	鹿児島県いちき串木野市 ^{くしきのし} 萩元前 ^{はぎもとまえ}			
協 定 面 積 10.3ha	田 (96%)	畑 (4%)	草地	採草放牧地
	水稻・飼料・保全	野菜		
交 付 金 額 79万円	個人配分 0%			
	共同取組活動 (100%)	農地管理費	93%	
		農道・水路管理費	5%	
		事務費	1%	
		多面的機能等増進活動費	1%	
協 定 参 加 者	農業者 38人、その他 2人			開始：平成18年度

2. 取組に至る経緯

本集落は水稻を中心とした複合経営が多い水田地帯であるが、高齢農家も多く、担い手の確保も困難であったことから、耕作放棄地の発生が懸念されていた。

このような中、農道・水路等を共同作業で維持管理しようという意識が高まり、集落内での話し合いを重ね、平成18年度から中山間地域等直接支払制度に取り組むこととなった。

3. 取組の内容

農業生産活動の取組により、耕作放棄地の発生を防止しつつ、多面的機能を増進する活動として景観作物の作付けにも取り組んでいる。

また、本制度に取り組む3集落が連携して、農業振興と農業経営の改善を図ることを目的に集落営農組織「羽島地区農用地利用連絡会」を設立した。今後は農作業の共同化、担い手への農作業委託を推進していくため、地域が一体となった農業生産活動の体制整備を目指し、地域の農地を有効に利用できる仕組みをつくることとしている。

さらに、集落の伝統行事であった「田の神角力」^{すもう}を復活させ、地域の子供等が参加する子供相撲や郷土料理を参加者で楽しむなど、農作物の収穫や自然の恵みに感謝し、地域住民の交流を図っている。



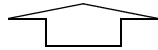
【羽島地区農用地利用連絡会設立】



【集落の伝統行事「田の神角力」復活】

【集落の将来像】

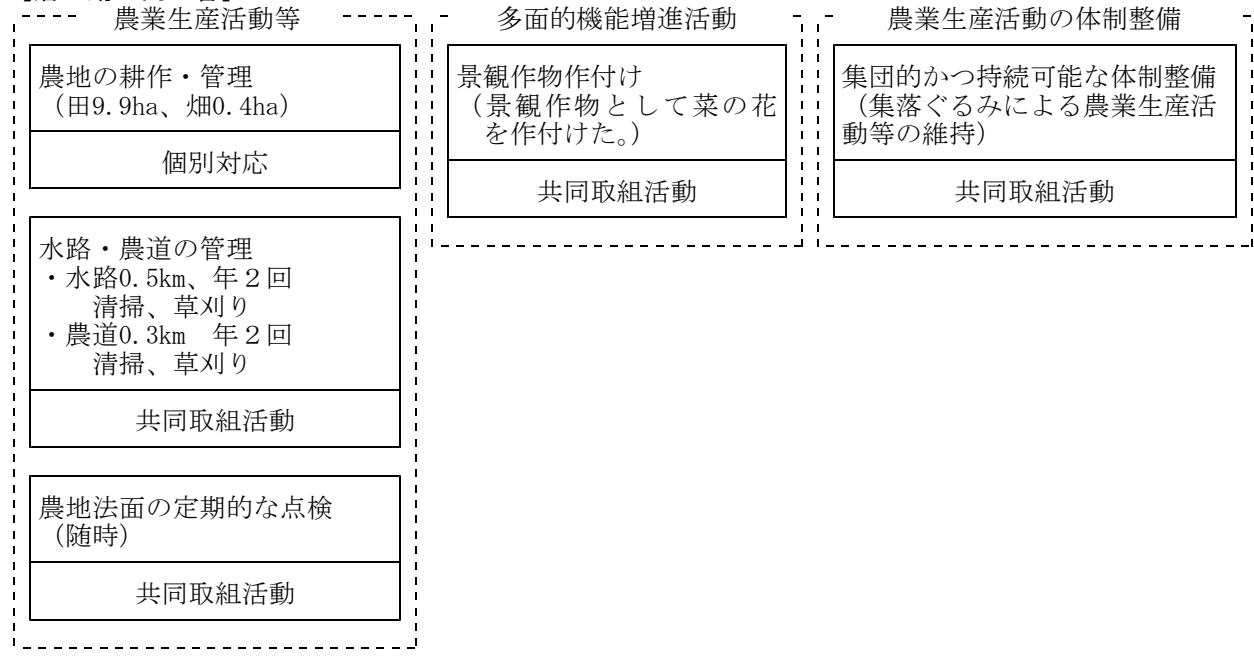
- 集落営農組織である羽島地区農用地利用連絡会と連携して農用地の保全に向けた取組を実施
- 地域が一体となった農業生産活動の体制整備を目指し、地域の農地を有効利用できる仕組みを構築



【将来像を実現するための活動目標】

- 担い手等への農作業委託や農地集積、流動化等を推進し、農業生産活動の体制整備を目標とする集落営農活動を構築する。

【活動内容】



集落外との連携

- 羽島地域内の中山間地域等直接支払制度に参加している3集落が連携して集落営農組織「羽島地区農用地利用連絡会」を設立した。
- 羽島地域内の住民が協力し、集落の伝統行事「田の神角力」を復活させる等、地域住民の交流を図っている。

4. 今後の課題等

現在、集落の高齢化が進み、後継者不足や担い手不在の問題が切実となりつつあるため、地域ぐるみの集落営農組織と連携した取組により、安定した農業経営を行っていかねばならない。また、集落人口の減少・高齢化なども集落の大きな課題となっている。

今後、農業の担い手を地域全体で育て、農業農村の活性化を図るため、集落営農組織の羽島地区農用地利用連絡会との連携により、農地の利用集積を進め、農業生産の省力化等に取り組むこととしている。

【第2期対策の主な成果】

- 集落営農組織「羽島地区農用地利用連絡会」H23.3.27設立
- 農道及び水路の維持・管理等の実施（農道0.3kmの草払い年2回、水路0.5kmの清掃年1回）
- 集落の伝統行事「田の神角力」を復活させ、地域住民との交流会を実施（参加者約50名）
- 景観作物（菜の花等）作付け